

HBI 學院通信

立場 聖書信仰・福音主義・超教派 実践 信仰・従順・聖潔

モットー「キリストを知り、教会に、世界に、時代に仕える」

〒003-0831 札幌市白石区北郷1条3丁目1-61 電話番号 011-871-7892 FAX番号 011-871-7899

・郵便振替口座 02720-9-19238 加入者名「北海道福音伝道会・北海道聖書学院」

・ゆうちょ銀行総合口座 記号19090 番号103151 加入者名「北海道聖書学院」



私を強くしてくださる方 テモテ第一 1章12~14節

学院長 松 元 潤

牧師の働きとして大切なことは何でしょうか。世界的なコンクールでの優勝経験を持つ新進気鋭の指揮者伊藤翔さんは、こんなことを語っています。「指揮者は、指揮が上手だったねえ、と褒められて喜ぶのでもなく、オーケストラの演奏は良かったよ、と褒められて喜ぶ人間でもない。自分が目指す指揮者とは、演奏を終えた後、聴衆が今日のベートーベンの作品はこんなにも素晴らしいものだったのだと、作品そのものの偉大さに目覚め感動する聴衆を生み出すことだ。」牧師が目指すところも、自分や自分が仕えている教会が人間的な評価を得ることではなく、キリストの福音の内容そのものに感動し福音に従って生きようとする聴衆を生み出すことではないでしょうか。

パウロはテモテに対して牧師の責任とは、**真理を教えることと偽りを論破すること**であると、この手紙で明らかにしています。パウロが何よりも大事に考えたことは、キリストの福音を守り通すことだったからです。どんなに居心地の良い人間関係があったとしても、教会が教会である、という証明にはなりません。偽りのない、間違いないキリストの福音が教会の真ん中にあること、・・・それが教会が教会である証明書だからです。パウロはそのことを本当に知り抜いていた人でした。

しかし、この重大な務めを全うするためには信仰による勇氣が必要なので、パウロはテモテを2つの点で励ます。

① 一つには、主の恵みの事実に立ち続ける、ということです。パウロは、自分はキリストと出会う以前にはどのような人間であり、今の自分の全存在がキリストの憐れみ・恵みによるものでしかない、ということを知り尽くしていました。**100%キリストの恵みによる今の自分だ**という確信がパウロの働きの原動力であったのです。なぜなら、13節冒頭で「私は以前には、神を冒涜する者、迫害する者、暴力をふるう者でした」と、赤裸々に自分の過去を告白しているからです。救い主としてのキリストと出会う以前に自分がどのような人間であったかは、私たちの働きの原点でもあります。私も、人からの非難や誤解の中に置かれる時、かつて神に背き放蕩三昧でこの世の楽しみの中に浸かって生きていた私に対して、神が何をしてくださったかを思い返します。救われてもなお無知だった私に、キリストの福音を学び知ることの豊かさ・神の愛の深さを教えてくれた恵みが与えられました。キリストのいのちにあって、愛し合う幸いも経験させてくれました。「**私たちの主の恵みは、キリスト・イエスにある信仰と愛とともに満ちあふれました**」という14節のパウロの告白通りの人生が、キリスト者的人生ではないでしょうか。牧者の働きがどんなに厳しくても、自分の人生が、身に余る、ありえない主の恵みに満ち溢れているという事実に立つときに、私たちは困難の

中で堅く立つことができます。主の恵みの事実が私たちの使命を支え、12節で告白されているように「**私を強くしてください**」のです。

② 2つ目には、他の誰でもないキリストが選び任命してくださったゆえに、私たちが神に認められているという事実は変わらないことあります。イエスは弟子たちに向かって、「**あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命しました**」とおっしゃっています。キリストが選び認めてくださった、という尊い事実が私たちを生涯守ります。12節でパウロは、私を強くしてくださいキリストは私に何をしてくださった方なのかを強調して、「**キリストは私を忠実な者と認めて**」くださったと感謝を述べています。この「**認めて**」ということばの元の意味は、『導く、率いる』ということです。キリストご自身が関与し導いてくださる中で、私たちを認め続けていてくださるのです。卒業生の皆さん一人ひとりを認めてくださったのは、キリストです。これから先の道は長く、戦いもあります。でもHBⅠで受けた訓練を通して、キリストの福音の力を、その身に体験してこられました。何の力もない「**違った教えや果てしない作り話**」に教会が揺るがされないように、その福音を守ってください。原典を学んだのは、言語的な知性を磨くためではありません。神のことばである聖書が本当に語っていることを、より正確に、より深く汲み取る力を身につけるためです。真理を語り、真理を間違った教えから守るためです。12節の「**私を強くしてください**」ということばは、不定過去形で、私たちはすでに強くされているんだと語られているのですが、新改訳2017ではキリストの力が今もこれからも働き続けている意味を含む訳し方をしています。私たちはずっと堅くキリストによって守られ強くされ続けるのです。

東日本大震災当時南相馬の遺体安置所に派遣された、一人の検視官の10年目の証言が報道されていました。彼が今でも決して忘れることのない小

さな赤ちゃんの遺体についての証言です。赤ちゃんの柔らかな肌に一つの傷もついていなかったことを不思議に思った検視官が、あとから、死後硬直で何かを抱くような形の傷だらけの若い母親の遺体を洗ったときに、その理由を悟ったという話でした。母親だけが傷だらけになって流される中でわが子を腕の中でしっかりと守っていたのです。母親の遺体の傷は愛の証でした。私はこの話を通して、改めて十字架で傷だらけになったキリストの御手の中で守られている自分の存在を思わされました。キリストだけが傷だらけになって、キリストの苦しみによって、今自分は生かされているのです。そうであるなら、私たちは新しく生かされている者として、苦しみと引き換えに命をくださったこの方の福音を伝え、この福音を守る者でなければなりません。真理を教え、偽りを論破して真理を守り通す使命は、私たちを今も強くしてくださいキリストによって果たすことができるのです。最後まで勇敢であってください。

本科卒業生



左から、平吹光太、斎藤雄一、壁谷真理子



卒業生の証し

Hokkaido Bible Institute

奉仕先

陶器師の手の中で

JECA友好東栄福音キリスト教会研修牧師

第53期卒業生 斎藤 雄一

学院での学びは、主が備えてくださった訓練のときでした。

申命記8章5節「あなたは、人がその子を訓練するように、あなたの神、主があなたを訓練されることを知らなければならぬ。」

私は音楽の教員としてそれなりの社会経験を積んだ後に召されて入学しましたが、学年が進むにつれて、自分ができると思っていたことができなくなっていました。音楽、人との関係、勉強、記憶力・・・。本当に全てができなくなりました。自信がなくなり、いつもなんとなく不安を感じていましたが、それは主が用いやすいように形を整えてくださるためでした。私の自信は「善惡の知識の木の実」で、害以外の何ものでもなかったのです。

一つ一つ主に明け渡し、碎かれ、自分には何も力はないのだということを学んでいきましたが、卒業を控えても、虚栄心は残っていました。できない自分を受け入れ切れなかったのです。無力感の中で、これからどうやって主の働きをしていけば良いのだろうかと不安が募りました。しかし、主は優しく良いお方でした。主の御靈がそのときどきに必要な力をくださることがわかつたのです。

エレミヤ書18章4節「陶器師が粘土で制作中の器は、彼の手で壊されたが、それは再び、陶器師自身の気に入るほかの器に作り替えられた。」

私を用いてくださる主ご自身を信頼してこれからも仕えていきたいと思います。どうぞ、日々御

靈に満たされるようにお祈りください。

奉仕先

主のあわれみと恵みによって

JECA札幌聖書キリスト教会伝道師

第53期卒業生 平吹光太

私は、ヨハネの福音書21章にある「わたしの羊を飼いなさい」「あなたはわたしに従いなさい」と言われたイエス様のおことばを握り、学院に入学しました。学院の学びと訓練を通して、自分がいかに、無知で弱く、愛がない者であるのかを教えられました。その自分の無力さを特に痛感させられたのは、経済的試練と、忙しさにどう向き合うかということでした。この二つの試練が、主により頼み、主を知る訓練の時となりました。

学院の学びと訓練を通して、知識だけではなく、実際に主が生きて働いておられることを間近で見させて頂き、また、私のものは何一つなく、全ては神の恵みであることを知りました。神により頼まなければ何もなすことができない領域へと主が導いてくださったことを心より感謝します。

今までこの三年間の学びと訓練を乗り越えられたのは、ただ主のあわれみと恵み、そして皆様のお祈りと励ましのおかげであったことを深く覚え、主に感謝致します。

「心を尽くして主に拝り頼め。自分の悟りに頼るな。あなたの行く道すべてにおいて、主を知れ。主があなたの進む道をまっすぐにされる。」(箴言3章5、6節)

主イエス様の十字架を負い、その愛にいつも満たされ、これからも主により頼みながら一歩づつ歩ませて頂きたいと願っております。

なおも無知で弱く、愛の足りない者ですが、これから働きのためにも引き続きお祈りいただければ幸いです。3年間本当にどうもありがとうございました。

奉仕先

会衆を知ること

JECA静内新生キリスト教会伝道師

第53期卒業生 壁 谷 真理子

学院を卒業して二度、説教奉仕をさせていただきました。その中で、みことばを取り次ぐことの喜びと共に、難しさを覚えました。

「まず自分がみことばから教えられなければ語ることはできない」。みことばから教えられたことを説教で語らせていただきました。そこで感じたのは、「学院の授業での説教」と、「教会の奉仕としての説教」は違うということです。みことばから自分が教えられたことを語ることも大切です。けれど、教会の奉仕で語る時には、それに加えて「会衆がどのようなみことばを必要としているか」を考える必要があると感じました。「会衆を想定してメッセージを作る」ことは、学院でも教えられていました。けれど、頭では理解していても、実際に卒業し、伝道師として母教会で奉仕させていただくまで、実感することができませんでした。

会衆を実際に覚えてメッセージをするには、会衆の靈的な必要に敏感になる必要があります。そのためには、会衆である「人」を知ることが不可欠です。人を知ることなしには、その人の靈的な必要を知ることも、満たすこともできないからです。教会に集っている人の祈りの課題は何か。その教会がどこに重荷を負っているか。どんなビジョンを持っているか。会衆に必要なみことばを届けることの重要性について考えさせられました。

会衆や教会の必要を覚え、必要なみことばを届けることができるよう、学院で学んだことを活かして奉仕してまいりたいと思います。

短期信徒コース修了生



左から、土屋みのり、河合良子

短期信徒コース修了生の証し

Hokkaido Bible Institute

奉仕先

修了して二か月

JECA興戸キリスト教会会員

短期信徒コース修了生 河合 良子

主を賛美します。

短期信徒コースを修了して2ヶ月がたちました。

昨年の春から始まったコロナ禍で、学びが出来るのだろうか?と不安の中でのスタートでした。入学式から5月の連休明けまで授業が始まらず、始まても暫くはZOOM授業でした。私が学院へ行ったのは対面授業が始まった6月に入ってからです。コロナにより一堂に集まれないことで、変更、中止になることも多々ありましたが、細心の注意を払いながら、幾つかの講演会が行われたことは感謝でした。ただ本科生の海外研修がキャンセルになったことには、心が痛みました。

始まった授業は全て「神を知る」ことに向けられていますが、講義慣れしていない私には難しいことも多くありました。またパソコンにも慣れていないので色々な人に助けられました。助けられる度に、神の国と神の義を求めている兄弟姉妹だ

なあと心が和されました。

生活面では2人部屋の寮生活。初めての経験でしたが、皆さんのお姿に励まされて勉強が頑張れたように思います。早天から就寝までの一泊は、70過ぎの私には少々ハードなものでした。

一年間祈り教え導いて下さった先生方には心からお礼申し上げます。

3月末に京都の自宅に戻りましたが、緊急事態宣言の中で、かなりの行動が制限されています。母教会である興戸キリスト教会は、現在ビデオ礼拝ですが、少數であっても教会に集まる幸いにあずかっています。教会にあっての私の働きは、個人的な交わりの他には何も具体的には、動いていない状態です。興戸キリスト教会は、今年創立40周年で記念に証集を出すことになり、私は学院での学びのことを書かせて頂きました。

家庭生活では知人への週2回の配食をスタートさせました。

また以前「雀のお宿」と銘打つて我が家を開放していましたが、改めて京都を訪れるクリスチヤン達の気軽な宿にしたいと思っています。京都へ5里奈良へ5里の京都と奈良のちょうど真ん中、一年中鶯が鳴いている静かな住宅地です。交通は近鉄、JRが便利です。

パソコンメールはbeautyryouko7970@yahoo.co.jp

この紙面をお借りしてお知らせします。気軽に利用して下さい。お待ちしています。

奉仕先

多くの人に支えられ、ゆるされ
JECA自由が丘キリスト教会会員

短期信徒コース修了生 土屋みのり

学院を卒業して2か月が経とうとしています。地元の名古屋はすでに蒸し暑く、北海道のからつとした空気を早くも懐かしく感じます。

私は短期信徒コース生として1年間学院で学び、

生活させていただきました。

振り返ると、1年と言う限られた期間の中、折々神様は私に試練やチャレンジ、同時にたくさんの恵みを用意してくださっていました。

コロナ禍の中で始まった学院生活でしたが、実家を離れての生活、母教会以外での教会生活、気候や風土の異なる生活…どれをとっても私にとって「初めて」の経験でしたので「コロナだから」という環境の変化というものはあまり感じませんでした。

学院での生活で強く感じたことは、多くの人に支えられ、ゆるされて私は生かされているのだ、ということです。祈りはもちろん、母教会の方からの言葉、学院の先輩や先生との会話、出席教会の方との交わり…。様々なことを通して神様から与えられている恵みの多さ、そして感謝の足りない自分に気づかされました。のために本当にたくさんの人を備えてくださった神様に感謝しかありません。

正直、卒業した今と1年前の自分に劇的な変化はあるか、と聞かれると即答できません。けれどこの1年、神様は最善な方法で私を練り、成長させてくださったと確信しています。そしてそれはこれから信仰生活の中でじわじわとじみ出てくるのではないかと思っています。

新入生の証し

Hokkaido Bible Institute



HBIに入學して
福音バプテスト宣教団
北広島チャペルキリスト教会会員

本科1年生 渡部 和弘

1999年に北広島チャペルキリスト教会で洗礼を受けながら礼拝を守りながら、公立の小学校で教

員生活を送っていました。退職が近づいてきて、退職後の進路の導きを祈っていたときに、聖書の御言葉がわたしに迫ってきました。

マタイの福音書25章21節「主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。おまえはわざかなものに忠実だったから、多くのものを任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ』」

神様からいただいたものを、このまま埋もれさせてよいのだろうか。神様から与えられ、あふれてきたものを神様に喜んでいただくために使いたい。兄弟姉妹の靈的助けをするために主の働きをしたいという願いが次第に強くなってきました。妻も協力してくれるということを言ってくれ、神と人に仕えるという使命が見えてきました。

神と人とに仕える者としては、弱く足りない器であり、これから先残された人生は少ないかもしれませんのが、許された人生のすべてを主にお献げし、喜びをもって、導かれるままに主に仕えていきたいと思います。ここまで人生を導いてくださった主に感謝し、すべての栄光を帰します。

これから約3年間、学院の先生方をはじめ、支援して下さっている方々と、何より導いてくださるイエス様とともに一歩ずつすべてのことから学んでいきたいと思っています。

学びは、神様と自分を深く知る機会であり、毎日悔い改めと共に恵みに溢れています。

この場をお借りして、私が入学するまでの経緯を記したいと思います。

以前、私は助産師として働いていました。私は助産師の仕事が大好きで、一生懸命働きました。しかし、夜勤や礼拝を守れない勤務で靈的に落ち込んでいきました。私は命をサポートする助産師でありながら、命を尊べないことや人を愛せないことには苦しんでいました。自分の変化に戸惑い祈る中で、仕事をやめて教会に仕えるように導かれました。

自分の進路や愛の無さに悩む中で、ヨハネの福音書を読みました。愛に飢え渴いた私の心は十字架の愛に満たされました。同時に、初めて「私も犠牲を払って誰かのために何かしたい」という神様の愛から来る自然な思いを持ちました。また、ヨハネ15章1-17節から神様は愛のない私を「愛を伝える弟子」として任命し、遣わそうとしていることを教えられました。

弟子として人に仕えるために、私は聖書をよく読み、神様に繋がり、もっと神様の愛と救いと希望を理解する必要があると思いました。そこから、主が犠牲を払って私達を贖って下さったように私も犠牲を持って喜んで他の人を愛したいと思います。そのためHBIに入学しました。これからHBIで学び、聖書を土台とし、神様を愛して人と教会に仕える者になりたいと思います。神様の導きを感謝します。

短期信徒コース生の証し

Hokkaido Bible Institute



愛を伝える弟子となるために
JECA札幌南福音キリスト教会会員
短期信徒コース生
印鑑 杏理

主の御名を賛美いたします。HBIに入学してすでに1ヶ月が経つことに驚きます。HBIでの



信じます。不信仰な私を
お助けください。
JECA友好東栄福音キリスト教会会員
短期信徒コース生
土門 市子

私は2年前に生死を分ける病気をしました。

それまでの私は今日がだめなら明日がある、死ぬのはまだ先のことと深く考えずに生きていました。ところがある日突然なんの予兆もなくその時がやってきました。私は病院のベッドの上で、自分が大切だと思っていたものが何一つ役に立たないことを初めて実感しました。そして自分はどうして死ななかつたのかと問い合わせ続ける日々が続きました。

ようやく無事に退院の日を迎えた時、これは神様がもう一度生きることを教えて下さったのだと思いました。では私を救って下さった神様は一体どういうお方なのだろう、救って下さった神さまにお返しがしたい。そのことがきっかけで教会に通うようになりました。しかし神様を求めながら、その裏側でこんな自分なんか愛して下さるわけがないと、自分の罪の深さに気付かされるたびに自分を責める日が続きました。ある日の礼拝でこの言葉が私を希望へと導きました。マルコの福音書9章24節「信じます。不信仰な私をお助けてください」この時から、ただただ素直に神様を信じよう求めようと思えるようになりました。神様を知ることが希望に変わった瞬間でした。短期信徒コースにこのような未熟な私を受け入れてくださったことに感謝と喜びでいっぱいです。

学院ニュース

NEWS

◆ 責任役員会並びに評議員会報告 ◆ (敬称略)

2021年度（2021年5月現在）の責任役員は中川昭一（代表役員）、ヴィッドマー・はるひ、田鎖直樹、吉本牧人、高橋政宣、川崎憲久、藤山勝彦、松元潤の8名です。評議員は小菅 剛（議長）、三浦育子、クオック・エド温、菜花和男、杉本博徳、村田晃、本多民生の7名です。

<2020年5月22日(火)開催：責任役員会のみ>

2019年度会計決算及び財産目録、監査報告。評議員・岡田順一から本多民生に代わった。4/14～5/6迄コロナ感染対策のため一時休校。5/7から一ヶ月間、オンライン授業を行なった。春の夜間聖書講座は中止、特別公開講座は11月末に延期。遠隔地授業開始：7地区8名受講。

<2020年10月20日開催：責任役員会&評議員会>

海外研修旅行及び夏期伝道実習はコロナ感染拡大のため中止。新規教師会メンバーとして吉永光生を承認。10/21～23日迄、特別公開講座（講師：大坂太郎師）、11/24～26日迄、教師講師研修会（講師：牧田吉和師）、秋の夜間聖書講座（講師：吉田浩二）。2021年度学院行事計画承認。

<2021年2月23日開催：責任役員会&評議員会>

2020年度卒業修了生及び2021年度入学者希望状況。責任役員の任期に伴う交代。後任責任役員として田鎖直樹、川崎憲久を承認。責任役員の任期は2026年3月末まで。会計監査の辞任に伴い、1名の後任者・大野戴子姉を承認（残任期間2021年度迄）。2021年度予算案承認。

<2021年5月18日開催：責任役員会のみ>

2020年度会計決算及び財産目録、監査報告。教育棟増改築返済金の一部繰上げ返済。松元潤学院長の任期更新（2024年3月定年迄）。学院行事に伴う傷害保険を掛ける。

◆ 特記事項 ◆

① 退任：大山裕昭、木村恵一（責任役員）、

サムエル・フィギリスタ（評議員）

② 新任：田鎖直樹、川崎憲久（責任役員）、

クオック・エド温（評議員）

（以上、文責・松元）